



米百俵デジタルコンテスト2021

グランプリ・特別賞発表会を開催します



ながおか・若者・しごと機構は、ユニークな発想を持つ若者がチャレンジできる機会を提供し、デジタル人材を発掘することを目的に「米百俵デジタルコンテスト」（略称：米100DC）を開催しています。昨年に引き続き、子どもの遊び、学び、暮らしを豊かにするデジタルプロダクトをテーマに、全国の若者から83作品が集まりました。

このたび、審査員による一次審査を経て選ばれた受賞候補11作品の中から、グランプリおよび特別賞が決定したので、発表会を開催します。つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、ぜひ取材くださるようお願いいたします。

米百俵デジタルコンテスト2021 グランプリ発表会

1 日 時 3月1日（火）午後2時～3時

2 開催方法 Zoomによるオンライン開催

3 会 場 NaDeC BASE（長岡市大手通2丁目ながおか市民センター地下1階）
司会は会場で行い、会場と各参加者をつなぎ、モニターに映します。

4 内 容

- ① 賞の発表
 - ・グランプリ（1作品）賞金30万円
当コンテストの「デザイン思考」特別授業に参加した市内小学生約300人がWEBで投票し、最も得票数が多かった作品が受賞。
 - ・特別賞（5作品）賞金各8万円
審査員が選ぶ表現賞、技術賞、持続可能性賞 各1作品
特別審査員が選ぶ長岡造形大学賞（高校生以下の応募者の作品から選出）、長岡市長賞 各1作品
- ② 審査員講評
- ③ 受賞者感想

5 参加者 審査員の佐藤ねじ氏、矢野昌平氏、特別審査員の長岡造形大学関係者、
受賞候補作の応募者 10人 計13人
(審査員の平野未来氏、長岡市長はコメント動画を放映)

6 その他

- ・コンテストの概要は裏面のとおりです。
- ・当日取材いただける場合は、NaDeC BASEへお越してください。



問い合わせ：ながおか・若者・しごと機構推進課

TEL 0258-86-6008

米百俵デジタルコンテスト概要

「次の世代の豊かさへの投資こそがいまの社会をよりよくする」という信念のもと、長引くコロナ禍でもユニークな発想を持つ若者がチャレンジできる環境を提供することで、若い才能を発掘、支援することを目的に、ながおか・若者・しごと機構が開催するコンテスト（今回で2回目）。

今年度は、新たな試みとして、市内の3小学校で「デザイン思考」を使った特別授業を実施。2回の授業*を通して「デザイン思考」を体験した小学生298人が、グランプリを決定するオンライン投票に参加した。

※7月にインタビューを通して小学生がほしい「ひみつ道具」のアイデアを考える「共感」の授業、1月に「Yes And話法」を使って受賞候補作について意見を出し合う「評価」の授業を行った。

募集内容

子どもの遊び、学び、暮らしを豊かにするデジタルプロダクト（アプリまたはIoTデバイス）のアイデア

※応募者の参考となるよう、上記プロダクトのユーザーである子どもたちがほしい「ひみつ道具のアイデア」を市内の小学生から公募し、集まった356件のアイデアと、「デザイン思考」特別授業に参加した小学生のアイデア340件をWEBサイトで公開。

応募者

平成9（1997）年4月2日～平成21（2009）年4月1日生まれの個人またはグループで創造性を持ち、デジタル領域に関心がある若者

賞について

グランプリ：小学生が自分で使ってみたいと思う
表現賞：表現力が優れている
技術賞：技術的に優れている
持続可能性賞：長く愛されるサービスになりうる
長岡造形大学賞：高校生以下の応募者の作品で内容が優れている
長岡市長賞：地域の課題を解決しうる

審査員（順不同 敬称略）

<審査員>

- ・佐藤ねじ（アートディレクター／プランナー）
- ・矢野昌平（長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 研究推進 教授）
- ・平野未来（株式会社シナモン 代表取締役社長CEO）

<特別審査員>

- ・長岡造形大学
- ・長岡市長

コンテストの経過

- ・7月 長岡市内の3小学校で第1回「デザイン思考」特別授業を実施（長岡市立阪之上小学校4年生、長岡市立上組小学校5年生、新潟大学附属長岡小学校4～6年生 計約300人）
- ・9月1日～11月1日 作品募集（全国から83作品の応募）
- ・11月 審査員による一次審査により受賞候補作を選定
- ・12月6日～1月5日 審査員の講評等により、制作者が作品をブラッシュアップ
- ・1・2月 第2回「デザイン思考」特別授業を行い、小学生が受賞候補作品の評価と投票を行い、グランプリを決定
審査員・特別審査員の二次審査により特別賞を決定